

(「地域情報化大賞」部門賞 地域活性化部門 受賞)

福岡市無料公衆無線 LAN サービス「Fukuoka City Wi-Fi」 (福岡県福岡市)

〔概要〕

訪日外国人をはじめとする来街者等の利便性向上、情報発信力の強化、災害時の活用を目的として、平成24年4月から、福岡市無料公衆無線LANサービス「Fukuoka City Wi-Fi」を開始。順次、拠点を拡大し、平成28年1月末現在、地下鉄全駅、空港、港、鉄道駅、バスターミナルなどの主要交通拠点や観光施設、宿泊施設、大型商業施設など、市内84箇所にてサービスを展開。また、自動認証機能・ポップイン機能の実装など、独自の取り組みを行っている。

〔導入の背景〕

福岡市は、人口153万人を擁する九州最大の都市である。アジアの主要都市に近く、空港、主要駅、港が半径2.5km圏内にあるコンパクトシティで、若者率（15歳～29歳の人口割合）は19.2%と政令指定都市で最も高い。主な産業は卸売・小売業やサービス業で、第3次産業従事者が9割を超える。

このような特性を踏まえ、国内外から人を呼び込み、消費の拡大を図る「交流人口増」を短期的な成長戦略と位置付け、訪日外国人をはじめとする来街者の誘客に力を入れており、その取り組みの核として公衆無線LAN整備に取り組んでいる。

〔事業スキーム〕

平成24年4月27日から地下鉄・観光案内所等16拠点でサービスを開始した。整備にあたっては、市関連施設は市が整備し、民間施設は民間の施設管理者等が整備する「官民共働」のスキームを構築。市が先導的に整備を進め、民間を誘導することにより拠点の拡大を図っている。また、福岡市が実施主体で

《新たな時代の都市インフラ「Fukuoka City Wi-Fi」》



○実施主体が福岡市であることから、様々な取り組みが可能



<Wi-Fiスタンプラリー>



<ポップインバナー>



<福岡マラソン臨時スポット>

(図1) 事業スキーム



特集2

地方創生に資する「地域情報化大賞」受賞優良事例

あることから独自の取り組みが可能であり、これまでに、回遊性の向上に資するスタンプラリーや、情報発信力を強化する.PopupIn機能などの独自機能の実装や、Wi-Fiを活用した観光トライアル・情報発信デモ、イベント時における臨時スポット設置などを実施。(図1)

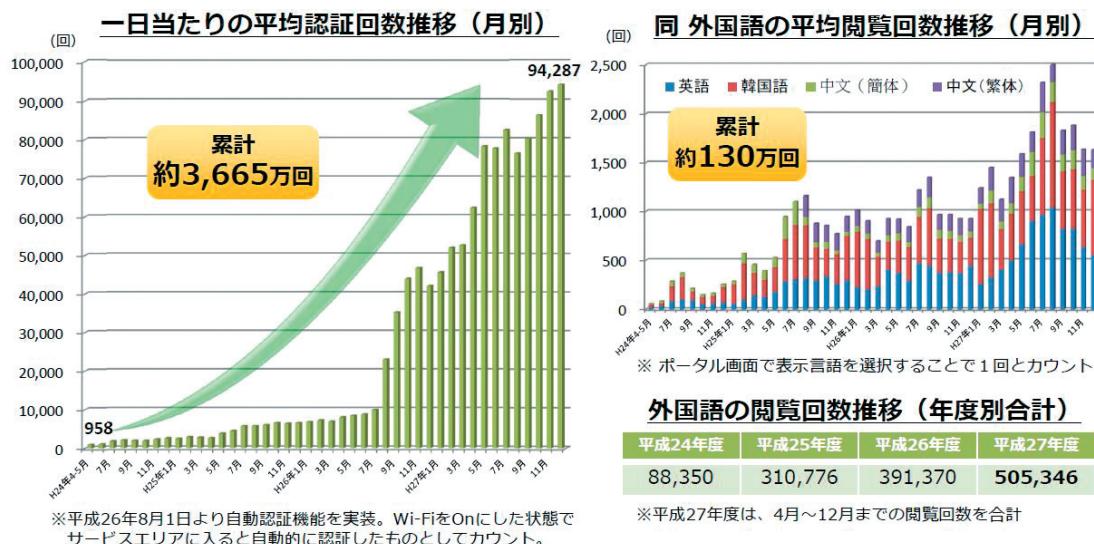
〔利用状況〕

◆Fukuoka City Wi-Fiの利用状況（平成27年12月時点）（図2）

- ・平均認証回数 約94,000回／日
- ・外国語閲覧回数 約1,600回／日

認証回数・外国語閲覧回数

※ 平成27年12月31日時点



(図2) 認証回数・外国語閲覧回数

〔事業展開のポイント〕

＜独創性・先進性＞

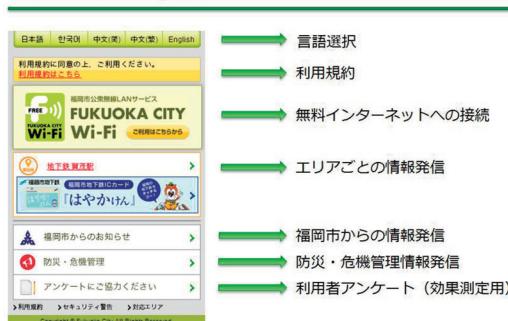
平成23年4月、「福岡市公衆無線LANの環境整備に関する検討会議」を設置。行政としての環境整備の方向性について検討を行い、自治体主体のサービスとしていち早く整備に取り組む（当時、自治体が行う地下鉄全駅での無料公衆無線LANサービスは全国初）。サービス内容としては、日・英・韓・中（簡・繁）の5言語に対応するとともに、市政情報等を発信。（図3）災害警報や緊急情報発信時にはポータル画面上（図面4）や情報バナー（後述）に表示、大規模災害時には利用登録なしで接続を開放するなど、災害時対応を実装し、平常時と災害時におけるリバーシブル運用を実現している。

また、利用者の利便性向上に向けて、1度の登録で6カ月間は、拠点内で自動的にFukuoka City Wi-Fiに繋がる自動認証機能の実装や、回遊性の向上に向けた、スタンプラリー機能（図5）、ブラウザ起動時にスマホ等の画面上部にバナー表示するPopupIn機能（図6）を実装しています。

平成25年8月からは、世界初の取り組みとして、台湾・新北市との海外ローミングを実現した。（平

成27年8月サービス終了)

ポータル機能



(図3) ポータル画面



(図4) 災害時バー



(図5) スタンプラリー



(図6) 情報バー・ポップイン機能



特集2

地方創生に資する「地域情報化大賞」受賞優良事例

<継続性>

整備・運営経費を抑制するため、既存でWi-Fiサービスを提供している電気通信事業者のWi-Fiクラウド環境・設備を活用。官民共働による整備などにより整備・運営経費を縮減することで、継続性を確保している。

また、事業の効果検証としてアンケートを実施。サービスを評価・検討することで利用者の満足度向上を図ることとしている。

<横展開>

安全性と利便性を考慮したセキュリティ対策、多言語対応、情報発信、災害時対応など、自治体主体のサービスとして必要な機能をパッケージ化している。Fukuoka City Wi-Fiの整備・運用スキームは、自治体のWi-Fi整備モデルとして他の地域への展開が可能。

<効果的なICT利活用>

訪日外国人をはじめ、来街者がまちなかでインターネットが利用できるWi-Fi環境を「新たな時代の都市インフラ」と捉え、環境整備を進めている。また、スタンプラリー機能やポップイン機能の実装により、Wi-Fiを活用した情報発信力の強化や街の回遊性向上を図っている。さらには、オープンデータへの取り組みの一環として、新たなビジネスの創出等に向けて、拠点毎・日時毎の認証回数等をオープンデータ化し、福岡市オープンデータサイトにて公開している。

<住民等との連携・協力>

Wi-Fi環境の利活用として、民間事業者や地元のまちづくり協議会などの連携・協力を積極的に実施。

NTTブロードバンドプラットフォーム株式会社が提供する「Japan Connected-free Wi-Fi」への参画や、NTT・JTBグループとの連携による、観光アプリ「J Guide」Jと連動させた「訪日外国人向け地域活性化トライアル」、まちづくり協議会とのタイアップによるスタンプラリーなどを実施。

また、イベント会場への臨時Wi-Fiスポット設置なども行っている。

・妖怪ウォッチ天神Wi-Fiスタンプラリー

拠 点：商業施設など6拠点

開催日：平成27年1月5日～18日

参加数：約3,000端末

・「福岡マラソン」ゴール地点へのWi-Fi臨時スポットの設置

認証回数：約3,000回（平成27年11月8日 実績）

〔波及効果〕

◆Wi-Fi環境の整備による経済効果（総務省試算）

平成24年～26年の3年間で、福岡市内での訪日外国人の消費額が約1億2,400万円増

便益／費用は1.4程度

※「地方のポテンシャルを活かすテレワークとWi-Fiの利活用に関する研究会」

～Wi-Fi整備推進WG最終報告～から

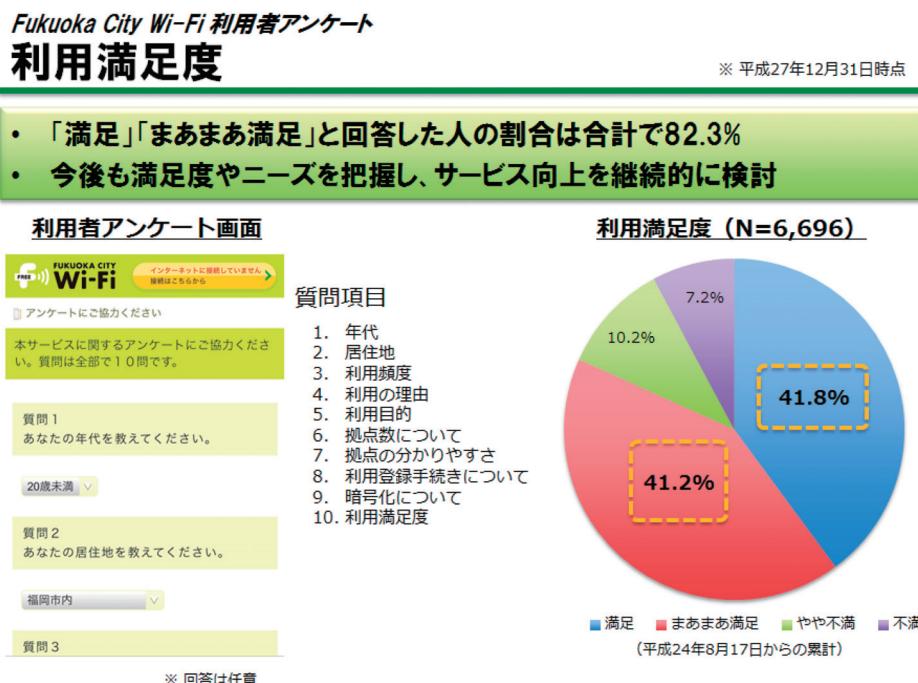
◆福岡市観光統計

- ・平成25年度入込観光客数 1,782万人 2年連続過去最高を更新
- ・平成26年度福岡空港・博多港からの外国人入国者数 120万人 3年連続過去最高を更新
- ・平成26年度MICE開催件数 336回 6年連続で東京に次ぐ2位
- ・平成26年外国クルーズ船寄港回数 99回 日本一

〔利用者の声〕

ポータル画面上で任意の利用者アンケートを実施（図7）

「満足」「ほぼ満足」は約82%



(図7) 利用満足度調査結果（利用者アンケート）



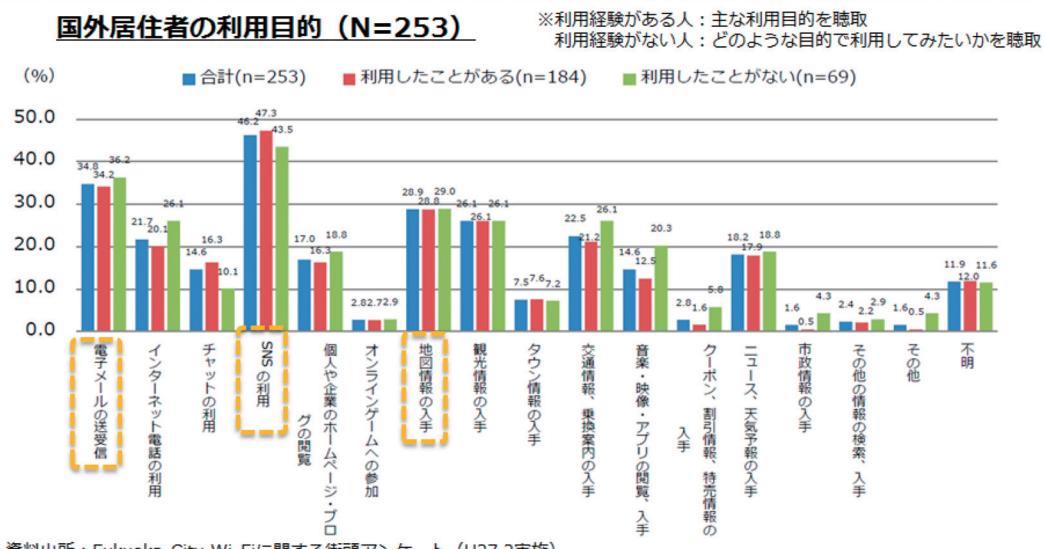
特集2

地方創生に資する「地域情報化大賞」受賞優良事例

年1回、街頭アンケートを実施。主要拠点にて外国人観光客、市民に対し、認知度、利用目的等を調査（図8）

Fukuoka City Wi-Fi 街頭アンケート 利用目的

- ・ 利用目的は「SNSの利用」が最多（全体の46.2%）
- ・ 次いで、「電子メールの送受信」（34.8%）、「地図情報の入手」（28.9%）など



資料出所：Fukuoka City Wi-Fiに関する街頭アンケート（H27.2実施）

（図8）利用目的調査結果（街頭アンケート）

[今後の課題と展開]

- ・スタンプラー機能やポップイン機能を広告として活用し、歳入確保による「持続可能な運用モデル」の構築
- ・市の施策等への活用に向けたWi-Fiアクセスデータ等のビッグデータ分析の検討
- ・一度の登録で異なるWi-Fiサービスが利用できるブラウザでの「認証連携」の実現

[導入費・維持費]

| | | |
|--------|---------------------|-----------|
| 平成24年度 | 整備・運用経費 | 約30,000千円 |
| | ※国交省 まちづくり交付金 | 3,816千円 |
| 平成25年度 | 運用経費 | 約10,000千円 |
| 平成26年度 | 運用経費 | 約11,500千円 |
| | 機能追加（自動認証・ポップイン等）経費 | 約15,000千円 |
| 平成27年度 | 運用経費 | 約16,000千円 |

〔問い合わせ先〕

- ・団体 福岡県福岡市
〒810-8620
福岡市中央区天神1-8-1
- ・担当部署名：市長室広報戦略室広報課
- ・電話番号／FAX番号：092-711-4827／092-732-1358
- ・e-mail:koho.MO(at)city.fukuoka.lg.jp

※実際にメールを利用する場合には (at) を@に置換えてください。